

第9回  
「優秀会社史賞」選考報告書

付・経営史料センター所蔵会社史目録  
(1992年4月～1994年3月刊行)

1994年10月26日

「優秀会社史賞」選考委員会

優秀会社史賞選考委員会事務局

財団法人 日本経営史研究所

〒102 千代田区平河町2-12-4 (ふじビル3F)

TEL 03-3262-1090

(無断転載を禁じます)

頒価 1,000円

目 次

第9回「優秀会社史賞」選考委員会 .....	1
第9回「優秀会社史賞」候補作品 .....	2
第9回「優秀会社史賞」入賞作品 .....	3
第9回「優秀会社史賞」選考報告 .....	5
入賞作品選評 .....	13
候補作品選評 .....	21
「優秀会社史賞」(第1回～第8回)入賞作品一覧 .....	37
付・経営史料センター所蔵社史目録 (1992年4月～1994年3月刊行分) .....	41

第9回(1994年)「優秀会社史賞」選考委員会

(敬称略, 50音順)

委員長	慶応義塾大学大学院教授 経営史学会会長	森川英正
委員	東京大学社会科学研究所助教授	橋川武郎
	京都産業大学経営学部教授	柴孝夫
	東京大学経済学部教授	大東英祐
	東京経済大学助教授	中村青志
	東京大学社会科学研究所教授	橋本寿朗
	青山学院大学経営学部助教授	長谷川信
	大阪大学経済学部教授	宮本又郎
	埼玉大学経済学部教授	山崎広明
	神戸大学経済経営研究所所長	吉原英樹

---

主催 財団法人 日本経営史研究所

協賛 財団法人 経済広報センター

---

事務局 財団法人 日本経営史研究所

## 第9回「優秀会社史賞」候補作品

(会社名：50音順)

『伊予銀行五十年史』	株式会社伊予銀行
『大林組百年史 1892-1991』 『大林組百年史 資料編』	株式会社大林組
『花王史100年 1890~1990』 『花王史100年・年表/資料』	花王株式会社
『光洋精工70年史』	光洋精工株式会社
『信越化学工業社史』	信越化学工業株式会社
『中央信託銀行30年史』	中央信託銀行株式会社
『プロミス30年史 草創 1962~1972』 『プロミス30年史 飛躍 1973~1981』 『プロミス30年史 革新 1982~1992』 『プロミス30年史 資料・年表』 『プロミス30年史 付編』	プロミス株式会社
『創業百年史』	株式会社丸運
『三井東圧化学社史』	三井東圧化学株式会社
『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 上巻』 『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 下巻』 『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 資料・年表・索引』	三菱地所株式会社

## 第9回「優秀会社史賞」入賞作品

(会社名：50音順)

### 優秀会社史賞

『花王史100年 1890~1990』 『花王史100年・年表/資料』	花王株式会社
『プロミス30年史 草創 1962~1972』 『プロミス30年史 飛躍 1973~1981』 『プロミス30年史 革新 1982~1992』 『プロミス30年史 資料・年表』 『プロミス30年史 付編』	プロミス株式会社
『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 上巻』 『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 下巻』 『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 資料・年表・索引』	三菱地所株式会社

### 優秀会社史賞 特別賞

該当作品なし

## 第9回「優秀会社史賞」選考報告

### 1. 選考の経過

- 1) 選考の対象
- 2) 選考の手順
- 3) 第1次選考
- 4) 選考委員会

### 2. 総 評

## 1. 選考の経過

### 1) 選考の対象

第9回「優秀会社史賞」選考の対象とした会社史は、1992・93両年度中に刊行され、財団法人日本経営史研究所経営史料センターにおいて収集することのできたものである。但し、91年度末近くに刊行され、前回の選考にさいしては入手が間に合わなかったものも一部含んでいる。

会社史の収集は、専門図書館協議会関東地区協議会と経営史研究所とが共同編集している『社史・経済団体史総合目録』追録（年2回発行）によっておこなった。今回の選考にあたって収集することができた会社史は、別冊となっている資料編あるいはシリーズものなどセットとみなしうるものを1点として247点であった。

### 2) 選考の手順

選考の対象とする会社史の点数が多いため、選考は第1次選考（予備選考）と本選考とに分けておこなった。第1次選考は、経営史あるいは経済史・産業史専攻の若手の研究者と経営史研究所のスタッフによっておこない、本選考にあたる選考委員会（別掲）に対し候補作品を提案、これを受けて、選考委員会は候補作品を決定し、候補作品を委員それぞれが分担して精読、議論して授賞作品を選び出すという手順でおこなった。

### 3) 第1次選考

第1次選考は、1994年6月から7月にかけておこなった。候補作品として10点前後残すこととして選考を進め、別掲のように提案した。第1次選考の過程で注目された作品としては、『未来を拓く』（新日鉄大分製鉄所20年史）『三井造船75年史』『関東鉄道株式会社七十年史』『山陰合同銀行五十年史』『共栄火災海

上保険相互会社五十年史』があげられた。

第1次選考は次の方々をお願いした。

飯田 隆（東京外国語大学）

及川 慶喜（立教大学経済学部）

後藤 伸（神奈川大学）

佐々木 聡（静岡県立大学）

田村 茉莉子（恵泉女学園大学・財団法人日本経営史研究所）

### 4) 選考委員会

第1回の選考委員会は、7月28日（木）に開かれ、第1次選考の報告を受け協議の結果、前掲10社の社史を候補作品と決定した。

選考の方法は、候補各作品ごとに4名の委員がこれを精読し、そのうちの1人がその本の選評を執筆することとした。授賞作を決定する第2回委員会は、8月27日（土）に開催、5時間余りの議論を経て入賞作品を決定した。

## 2. 総 評

優秀会社史賞の年は、どういうわけか、決まって暑い夏がやって来る。第1次選考、本選考の二つの優秀会社史賞の選考過程において、選考委員たちが、あの巨大な量の社史を何冊も読み通すのは、大体が夏である。前回、つまり、第8回優秀会社史賞の夏も、暑さは大変きびしかった。そして、今回の夏は記録的な猛暑であった。気が遠くなるような暑さとたたかいながら、選考委員たちは社史を精読しなければならなかった。今、秋風の中でこの総評を書きながら、「よくもあんな苛烈な仕事ができただろう」と思う。その意味でも、とくに、この第9回の優秀会社史賞は思い出深いものとなろう。

さて、「選考経過」が記したように、第1次選考が対象とした「会社史」は全部で250点ほど、その中から候補作品として絞られたのが10点、前回の15点に比べるとずいぶん少ない。しかし、その分だけ、10人の選考委員（前掲）による候補作品の読み込みは、これまでに比べ、より充実していたと言えよう。1点を4人の選考委員が読み、1人の選考委員が4点を担当した上で、そのうち1点の選評責任者となった。

10冊の候補作品は前に紹介した通りであるが、金融3社、化学3社、機械1社、建設1社、運輸1社、不動産1社という構成になる。化学が多いこと、プロミスという、いわゆるサラリーマン金融機関が登場したことが今回の特色と言えようか。100年史が4点、これは、前回の7点（その中には400年史と言うことができる『住友別子鉱山史』が含まれる）に比べると少ないが、候補作品に占める比率で見ると大差ない。日本の企業の寿命が長くなっていく限り、100年史（あるいは100年以上の期間を取り扱う社史）のウエイトの高さは今後も引き続き見られるであろう。

そして、選考委員会は、精読と慎重審議の末、3点を入賞作品とした。『花王史100年』『プロミス30年史』『三菱地所社史（丸の内百年のあゆみ）』である。最大13点（第1回）は別としても、大体5～8点が入賞していた過去の実情から

すると、最少記録である。

また、入賞作品のすべてが「優秀会社史賞」であり、「特別賞」はなかった。これは、今回が初めてのことである。

選考委員会に明文化された選考基準があるわけではない。しかし、前回の委員会で合意された三つの項目が、今回も事実上の選考基準となった。第一は、社内史料のディスクロージャー、第二は、会社の発展過程をもたらした諸条件、あるいは、その過程における重要な出来事にかんする的確な説明、そして第三は、「読ませるうえでの工夫」である。この第三の基準に属することであろうが、今回の選考委員会は、ストーリーの展開や記述のしかたの斬新さを重視した。『プロミス30年史』の入賞はその結果と言える。社史の編集スタイルのマンネリ化がとかく目につく現状において、社史づくりの斬新さを特別に評価した私たちの態度は適切なものであったと思う。

選考委員会では、前述したように、1点の作品を4人ずつの委員で精読した上で、4人の評価結果を会員で審議した。審議には十分な時間をかけたが、今回は4人の評価結果が大きく食い違い、4人の内部での調整に手間取るということにはなかった。これを言い換えると、優秀会社史賞に選ばれた3点と他の7点との間の差について、委員の間ではほとんど評価の違いはなかったのである。

ただし、他の7点といっても、『三井東圧化学社史』だけは7点の中でも入賞作に近いところに位置づけられた。それでも、これを優秀会社賞に加えようという強い意見は出なかったのである。理由は、東洋高圧、三井化学等の前身各社の創業と戦前戦中期の経営の記述、さらには、それら前身各社の諸事業の三井鉱山内部における成長過程の記述は抜群にすぐれているのに、戦後の諸過程、とくに東圧、三化の石油化学志向、両社の合併、三井グループにおける石油化学コンビナートの並立といった重要問題にかんする説明が不十分で不満を残したところにあった。

遠い過去については積極的に史料を公開し、分析、説明も詳細かつ大胆であるのに、現在時点に近くなると手薄になり、精彩に欠けるという傾向は、過去にも

見られたし、前回の総評でも問題にしたところである。こうした傾向を生み出す、「会社史」に対する企業の姿勢は、今回の候補作品の多くからも感じ取られた。大変残念なことである。私たちは、何も企業の現状をさらけ出して公開して欲しいなどと無理な要求を行っているわけではない。「十年ひと昔」の範囲内では、企業の史料ディスクロージャーにも限界があることぐらいは理解している。しかし、その範囲を越えてまで史料公開を拒否したり、おざなりな説明でお茶を濁したりしたのでは、何のための社史づくりかと言いたいのである。

今回「優秀会社史賞」に選ばれた『花王史100年』でも、昭和40年以降の時期にかんする企業史料の利用をめぐる、会社側と外部執筆者の間に意思の疎通を欠くようなことのある事情が、同書の「あとがき」からうかがわれる。私たち選考委員会は、同書の全体としての充実した内容を評価することで「優秀会社史賞」に選んだのだが、それだけ余計に「あとがき」に記された事実を問題にしておきたくないのである。

野中郁次郎氏らの名著『失敗の本質』を通じて、私たちは、過去の日本軍隊がいかに失敗の原因の究明を怠り、いや失敗の事実そのものの内部公開さえも抑制し、その結果が同じ失敗の惨憺たるくり返しを招いたことを知り得る。これに対し、アメリカ軍は、失敗の事実の公開はもちろん、原因の解明、責任者の追求を徹底して行い、同じ失敗のくり返しや戦術的失敗が戦略的ダメージにつながることを防ぐのに成功した。日米両軍の勝敗の帰趨は自ずと明らかであった。

今、アメリカ企業の日本に対するまき返しと日米企業による世界市場のシェア争いがふたたび激化している。この段階は、ミッドウエーに始まるアメリカ軍の攻撃を想起させるものがある。日本企業は、ここで自らの失敗の事実を直視せず、その原因の究明を怠った過去の日本軍隊の轍（てつ）をふんではいけないのである。

私が、10年以前の史実の公開に抵抗し、自らの歴史のおざなりな説明でお茶を濁したがる日本の会社の社史づくりの姿勢を強く批判する理由を十分考えていただきたい。たんなる社史の問題ではない。社史づくりの姿勢には日本の企業文化

がダイレクトに反映している。今、日本企業は、激烈な世界市場競争を生き抜くために、企業文化の見直し自体に迫られているのである。私の批判は耳に入りにくいかもしれないが、社史づくりのレベルを超えたところに目を向けていることをどうかご理解いただきたい。

(森川英正)



入 賞 作 品 選 評

花王史100年（1890～1990）

プロミス30年史

丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史

## 優秀会社史賞

『花王史100年 1890～1990』, 同年表/資料

花王社史編纂室・財団法人日本経営史研究所編集 花王株式会社発行

1993年3月 905p, 285p 27cm 索引あり

本書は花王の100年史への期待にたがわない、読み応えのある本格的な社史と言える。花王の創業者長瀬富郎が花王石鹼を発売した1890年から、総合油脂化学企業に発展して合成洗剤での地位を確立し、さらに衛生用品、化粧品などへの多角化を成功させた1990年までが、七つの時代に区分され記述されている。「あとがき」によれば、本書の核になった研究開発、販売政策、マーケティング戦略の3本柱であるが、それだけにとどまらず、各章の記述の対象は、経営戦略、組織、財務、人事、労務など、もれなく目配りされている。概括的に言えば、各章の記述が総合的になされていること、そして、記述の内容が他の社史と比較しても高い水準にあると評価されたことが、今回の受賞の理由となろう。

具体例を挙げると、第1に、戦時体制以前の時期(1934年まで)を扱う第1章、第2章は限られたスペースの中で、既存の『花王石鹼五十年史』(1940年刊)などで触れられなかった点を明らかにしている。ひとつは、長瀬富郎の個人企業(長瀬商店)から長瀬家の家族企業(合資会社長瀬商会)に発展する過程が描かれ、マネジメントの在り方も明確になったことである。そしてまた、科学的管理法の導入などの工場管理、労務管理や店員の日常と仕事に関する詳しい記述も本書のファクトファインディングである。100年史を一冊の本にまとめようとしたとき、一つの章に割けるページ数はさほど多くはない。実際、本書も通史であるが最近の40年史に重点をおいて編纂されているから、第1章、第2章が限られたページ数のなかで、明快に花王の経営発展を描いたことは評価されるべきである。

第2に、最近40年史としての本書の中心をなす第5章、第6章における分析を挙げることが出来る。量的に見てもじつに全体のページ数の55%をこの二つの章が占めている。1965年から1974年までを扱う第5章は、垂直統合と多角化戦略によって、公害問題、石油危機等の試練を乗り越え、新たな成長に向かう花王が描

かれている。まず再販売価格制度と販売チャネルの整備を中心とした販売政策の革新からはじまり、新製品開発、経営多角化の開始が詳述されている。次いで、1975年から1985年までを扱う第6章は、丸田社長のもとの多角化によって洗剤工業から脱皮した花王の積極的な経営拡大が叙述され、吸水性ポリマーを中心とした新事業分野への展開を軸に密度の高い記述がなされている。

とはいえ、本書の内容についてまったく注文がない訳ではない。まず、家族企業として成立した花王は、第3章以降の時代にどのようにして経営者企業に転換したのだろうか。第1章、第2章では、1927年にはじまる第2代富郎を含む3人の従兄弟による経営体制までの叙述がなされているが、戦時期以降、長瀬家の人びとと花王との関係が変化していくことは触れられない。これは、たんに長瀬家に関する記述が手薄になったことを指しているのではない。これにともなって、花王という企業のマネジメントに関する記述が希薄になったことも惜まれる。さらに、現役経営者の経営理念があまりに前面に押し出され過ぎたという感を持つ。今日の花王をもたらした経営者の役割は重要であろうが、理念だけでなく、より具体的なマネジメントの事例のなかで、経営者の役割を客観化する作業も必要ではないだろうか。

最後に、業界の動向にも目配りの利いた本書であるが、P&Gとの競争についてはあまり触れられていない。もちろん、自由化とともにP&Gが日本に進出し、洗剤における競争が始まったところと、後の紙おむつについては記述されているが、P&Gとの競争への対処にはあまり立ち入っていない。P&Gとの競争は花王の成長にとって大きな意味を持っていただけに、より立ち入った叙述を求めるのは高望みしすぎであろうか。

(長谷川 信)

## 優秀会社史賞

『プロミス30年史 草創 1962～1972』, 同 飛躍 1973～1981,  
同 革新 1982～1992, 同 資料・年表, 同 付編  
プロミス株式会社社史編纂プロジェクト編 プロミス株式会社発行  
1994年2月 399p, 467p, 753p, 159p, 170p 29cm

『プロミス30年史』は全5巻の浩瀚な社史である。第1巻は「草創」として創業前史（創業者・神内良一の出自）と、1962年大阪で商業手形割引の金融業を創業、翌年PC（プロミスチェック）システムをもって消費者金融に乗り出し、名古屋、東京への店舗展開を果たした72年まで、第2巻は「飛躍」として全国展開をはかった81年まで、第3巻は「革新」として、84年の危機を経て消費者金融会社としていっそうの発展をとげていく92年までが書かれている。それに年表・資料が別巻になっており、さらに「庶民金融の潮流」と「アメリカの消費者信用」の二つの論文から成る「付編」がつけられている。

本書には問題点や不満な点がいくつかあるが、それを上回る優れた点があり、総合的に評価して優秀会社史賞に値する。

本書のすぐれている点は、まず、「読ませる社史」であることである。これは本書の選評を担当した選考委員が一致して挙げた点である。大部ではあるが内容が面白く、文章がいきいきしているため、比較的らくに最後まで読み進むことができる。ページ数が多いことを武器に、重要なことは内部資料を使って、具体的に、リアリティー豊かに書かれている。

創業以来、消費者金融のパイオニア企業として順調に成長してきたプロミスは、1984年に資金調達環境が急変したために経営危機に直面する。創業者は金融機関をまわって協調融資を実現し、自らは責任をとって代表権を返上するとともに、保有する自社の全株式を預託する。この経営危機と、それへの対応の意思決定の過程が100ページ以上（第3巻、pp218～336）にわたって述べられている。この部分は本書のなかで特に光っているところであり、この社史の価値を高めている。

叙述の姿勢が客観的であることも良い点である。創業者の個人崇拜が少し感じられるが、それほど気にならない。サクセスストーリーに終わらせず、経営危機や経営の問題点などについても真正面から取り上げ、くわしく書かれているからであろう。

分析的な態度も評価できる。たとえば、無担保ローン（いわゆるサラリーマン金融）では急成長を遂げることができたのに、なぜ不動産、有価証券などを担保にする有担保ローンの事業では所期の成果を挙げることができないかについて、的確にその理由が分析されている（第3巻、p.525～526）。プロミスの無担保ローンの成長は、PCシステムというすぐれた独自システムに支えられているのに対して、有担保ローンはそのようなシステムは開発されていないのである。

本文中にもデータが示されているが、資料・年表も充実している。自社の歴史だけを記述するのではなく、同業他社（日本だけでなくアメリカについても）にも注意を払っており、本書を読むことによって、この新興の産業の生成と発展について基本的な知識を得ることができよう。

多くの人は「サラリーマン金融」といわれるこの産業と、それに属する企業に悪いイメージをもっているのではないだろうか（筆者はそのひとりであった）。この社史は、消費者金融という新しい分野の企業のイメージ改善と理解の増大にも寄与すると思われる。この点も本書のメリットとして指摘しておきたい。

しかし本書にはいくつかの問題点もある。まず、ボリュームの大きすぎることを指摘しなければならない。本文3巻だけでも1612ページ、資料・年表と付編を加えると1941ページになる（重さ8キログラム！）。ページ数が多いため、叙述は冗長のきらいがある。『付編』は社史としては必要ないのではないだろうか。概念的フレームワーク（経営者、経営戦略、組織、経営成果などから成る枠組み）がはっきりしないことも不満な点である。 （吉原英樹）

## 優秀会社史賞

『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史』上巻・下巻，同資料・年表・索引

三菱地所株式会社社史編纂室編集 三菱地所株式会社発行

1993年3月 565p, 729p, 590p 27cm

『丸の内百年のあゆみ』は力作である。ほとんど何の異論もなく、受賞作に決定した。

上巻は「創業から当社設立へ」と題され、1950年までの歴史が語られる。下巻は「三社合併から21世紀へ」という表題の下に1980年代末までの会社史が叙述されている。

序章「丸ノ内の黎明」は「三菱地所株式会社は昭和12年5月7日、三菱合資会社から独立して誕生した」という文章で始まるが、その事業の開始は、三菱が政府から丸の内一帯の払下げを受けた明治23年3月であり、「当社発展の歷程はまさに丸の内の歩みと軌を一にしている」と指摘し、中世における江戸の起こりから維新直後までを叙述している。この章が端的に示しているのだが、本書は丸の内という特定の地域が日本の代表的ビジネスセンターへと発展する過程を明らかにする都市計画史、もう少し厳密にいうと丸の内開発史というのが1本の筋になる。第1章「丸の内、三菱の所有となる」では官庁集中計画や市区改正事業にも筆が割かれている。なお、丸の内払下げ前の土地売買や丸の内払下げの経過については基本的な点ですでに明らかにされたことと異なる叙述であるが、その内容そのものは詳細になっていることはいままでのない。

第2章「一丁倫敦の完成」、第3章「東京駅の開業と第一次世界大戦」、第4章「丸ビルの建設と関東大震災」、第5章「三菱地所株式会社の誕生」、下巻第9章「丸ノ内総合改造計画の推進と地方都市への展開」、第10章「新しい丸の内の完成と新規事業への進出」などでは三菱地所が建設した建物に限らず、隣接の建物をも含めて、丸の内におけるオフィスビル建築史になっている。戦後については三菱地所の設計監理の建物に限定されているが、戦前のヨーロッパ風の赤煉瓦の建物から丸ビルに代表されるアメリカ式の機能的な建物への変化などの叙述

は興味深い。建築史には不案内だが、フラーと提携し、フラー建築会社を設立し、アメリカの工事技術、管理、報酬の仕組みなどを学んだ点やフラーとの関係が断絶したという通説を覆す分析も関心を惹くものである。

なお、叙述も概して読みやすいし、推定は推定と明示し、不詳のことは不詳と明確に書き留めて、主張の根拠をかなり丁寧に書き記す記述の仕方も高く評価するに値する。また、企業情報の公開開示という点でも高い評点をつけることができると思われる。

さて、丸の内開発史、オフィスビル建築史であるとともに、本書が三菱地所の経営史であることはいままでのない。事業領域の展開、経営の業績については各章の最後の節で取り纏めて触れられている。第1章第2節「不動産事業の始まり」、同第3節「丸の内土地の払下げ」、第2章第4節「三菱合資会社の設立と不動産事業経営」から始まり、第11章第8節「安定成長時代の到来と当社の経営」、最後の第12章第7節「業容の拡大と連続の増収増益決算」にいたるまで、基本的に同一の形式で基本データが整理されている。したがって、読者はそれらを通読することで事業分野ごとのウェイトの変化や経営業績の変動を知ることができる。

難点がないわけではない。戦後の三菱地所は、本業の都市開発という面をもった不動産賃貸・管理、その活動地域の拡大、設計監理から不動産販売、やや消極的ながら埋立事業、さらに「余暇事業」、大規模住宅開発、注文住宅へと多角的に事業を展開し、海外展開をも試みて総合デベロッパーへと発展したが、その際にいかなる経営方針がとられてそうした成果となったかが記述されていないのが惜まれる。借室需要の増加に応じてビルの新增築を行い、三菱系各社の地方進出による地方のオフィス需要に対応して地方でビル建設、賃貸・管理を行うということからすれば、経営方針は不要であって、ニーズがあるところに事業を展開したとも読めるが、多少不満が残るところである。また、三菱本社が陽和不動産、関東不動産に分割され、さらに地所と3社合併して新たに三菱地所が設立される過程も、陽和、関東の動きがブラックボックスになっているためよくわからない。これらに関してはもう少し突っ込んだ分析がほしかった。なお、きれいな写真がたくさん収録されているし、『資料・年表・索引』編もたいへん充実している。

(橋本寿朗)

候 補 作 品 選 評

伊予銀行五十年史

大林組百年史（1892～1991）

光洋精工70年史

信越化学工業社史

中央信託銀行30年史

創業百年史（株式会社丸運）

三井東圧化学社史

## 候補作品

### 『伊予銀行五十年史』

伊予銀行五十年史編纂委員会編

1992年6月 1303p 27cm

伊予銀行は、いわゆる「一県一行主義」の国策にそって、昭和16（1941）年、今治商業銀行・松山五十二銀行・豫州銀行が合併して成立した伊豫合同銀行を直接の起こりとするが（昭和26年、現在の行名に変更）、その淵源はさらに古く、明治期の銀行類似会社、国立銀行、さらにその他の私立銀行など、愛媛県下の50有余の銀行が永年にわたる合併を経て一行に統合されたものである。本書は、明治期から昭和戦時期にいたる愛媛県の諸銀行の成り立ちと、それらの合同のプロセスを叙述した序章に始まり、以下本史部分にあたる6つの章と、座談会記録をおさめた付編、営業店小史、資料編からなる総計1303ページの大著である。

創立前史を描いた序章は、国立銀行の制度や一般金融史の説明など、研究者にはやや冗長に映るが、地域経済の動向と合わせて、愛媛県の銀行合同の歴史が手際よく描かれており、愛媛県金融史を知りたいものには大変参考になる。本史部分は各章とも、日本経済の動向、愛媛県の経済・産業の状況、経営計画・組織、戦略、人事・福利、事務合理化、営業活動の推移の配列で、構成されている。オーソドックスな構成であり、記述もいろいろな点に目配りされていて、そつがない。愛媛県産業史についても、銀行内に調査・研究の蓄積があるからであろう、産業別に簡要な説明を加えている。経営計画の記述は興味深いし、また業績の変動の説明に力を入れていることは評価される。たとえば、昭和50年代前半の長期減益を、県内造船不況との関係で説いているところなど、有益であった。

また、本書で読み物および史料としての貴重なのは、「付編」に収められている「愛媛県における銀行業の回顧と展望」「伊予銀行の半世紀を顧みて」という2つの座談会記録である。それに続く「営業店小史」もなかなか良い企画である。営業店一覧の付いている銀行史は珍しくないが、本書のように相当の頁数（144ページ）を使って、各店の成り立ちを要領よく説明しているものは少ない。

このように、本書には、同行経営史の資料としてばかりではなく、愛媛県金融史・経済史の文献としても役立てようとの編纂意図がうかがわれ、地域経済の担い手としての同行の社会的責任意識を感じとることができる。分析、記述も銀行マンらしく手堅く、水準以上の社史と評価できることは確かである。行内だけで、これだけの大著を刊行された執筆者の努力に敬意を表したい。

しかしながら、都銀、地銀を含めて今日の銀行史のレベルは一時代前より随分高くなっており、審査にあたっては、その点を意識せざるをえなかった。以下は、いま少し工夫があれば、審査結果が異なったものになったであろうと、思われる点である。①本史の各章の構成を統一的にしたのは良いとしても、多くの項目について事実を詰め込もうとしただけに、説明が駆け足になったり、総花的になっている。50年の同行の歴史において決定的に重要であったことは何か、それについての重点的記述が欲しかった。②愛媛県産業の動向と銀行行動についての記述が必ずしも結びついていないように見受けられた。③貸出先など資金運用についてのデータの開示は集計的な数字にとどまり、経営分析に物足りなさを感じたし、同行を介した資金循環についての具体的イメージをつかみえなかった。④経営状況を経済環境との関連で語るのは当然としても、経営者や意思決定についての記述が乏しく、同行の能動的側面があまり浮かび上がってこなかった。

（宮本又郎）

## 候補作品

『大林組百年史 1892-1991』, 同資料編

大林組社史編纂委員会編集 株式会社大林組発行

1993年6月 967p, 376p 29cm 索引あり

明治25(1892)年に大阪で創業した大林組は、創業者の伝記である『大林芳五郎伝』(昭和15年刊)を皮切りに、『大林組70年略史』(昭和36年刊),『回顧70年 大林組とともに 白杉嘉明三』(昭和43年刊),『大林組八十年史』(昭和47年刊)などの社史,伝記を刊行しており,建設業界のなかでも,従来から歴史編纂に力を入れてきた企業である。

本書の本文は935ページからなるが,本文が700ページ近くあった既刊の『八十年史』を4分の1近くに圧縮したうえで,そこに詳述した最近20年史を加えるという記述のスタイルをとっているため,創業の明治25年から昭和45年までの80年が約200ページ,昭和45年から平成3年までの20年が約700ページという構成になっている。そのため,全体を100年の通史として読むと,やはりアンバランスの感は否めず,最近20年史の印象がきわめて強い。たとえば,創業者大林芳五郎がなぜ呉服小売業から請負業の修業に転じたのかという創業の動機や,三代の社長に仕えて大番頭と呼ばれる白杉嘉明三がはたした役割,また同族企業の経営から開かれた近代的建設企業のマネジメントに脱皮してきたプロセスと,そこにおける葛藤などについて,本書の前半部分を読んでも残念ながら十分に伝わってこない。

既刊の社史がある場合の100年史の編纂の仕方についてはさまざまな考え方がありうると思われるが,企業の100年の歴史のダイナミズムを伝えるためには,やはり100年を通じた観点からの構想と内容が基本的に追求されるべきと思われる。400ページ近い本書資料編に収録された,創業の明治25年からの主な受注・竣工工事リストは貴重な記録であるが,他方で財務・経理データは株式を公開した昭和33年以降のものにとどまっている。できれば,それ以前の時期の財務・経理データの収録の努力も欲しかった。

本書の最大の特徴は,最近20年の詳しい記述,とりわけ建築技術の進歩をわかりやすく解説しながら主要な各工事の記録を盛り込んでいることである。豊富なカラー写真を使った同社の工事活動記録を追うことにより,高速道路網の拡大,都市地下網の拡充,高層ビルをはじめとする都心のビル群の展開,ショッピングセンターをはじめとする流通施設の発展など,土木・建築面から日本の経済社会の施設基盤の充実と発展の様相をダイナミックかつ具体的に理解することができ,興味は尽きない。

ただ,残念ながら,そこには建設会社の従来の社史にほぼ共通して見られた限界も残っている。まず第一に,建設業の重要な特色とされる下請制に関して,戦前期以来,一貫してその仕組みや実態についてほとんど記述がないことである。また,現場の労務管理についても言及されておらず,たとえば,建設労賃の動向また労賃上昇が企業活動にどのような影響をもたらしたのかについても詳しくふれて欲しかった。

第二に,他社動向を含めた業界的視点が希薄なことである。工事の受注に至る経緯などについては書かれていないため,受注をめぐる各社間の競争構造や,逆に談合などに象徴される各社間の協調構造については,本書からは知ることができない。ジョイントベンチャー工事の普及と展開についてもまとまった記述が欲しかった。

第三に,全社的経営事項についての記述は,ある程度なされているものの,十分に体系化されず,戦略的意思決定ならびに収益動向や財務を含めてトータルな経営活動を把握しようとする視点がまだ弱く感じられた。

要するに,本書はすぐれた工事記録史の集積であるものの,その内容はまだ工事技術中心であり,受注や労賃などの市場動向を分析した記述には至っておらず,経営的観点からの記述もまだ希薄の感が否めない。今後の建設会社の社史には,従来の工事史中心の枠組みを越えた新しいタイプの社史の登場を期待したい。

(中村青志)

## 候補作品

### 『光洋精工70年史』

光洋精工株式会社社史編集グループ・財団法人日本経営史研究所編集

光洋精工株式会社発行

1993年3月 581p 27cm 索引あり

光洋精工はベアリング業界最大手の一つである。ベアリングメーカーといえばやや地味なイメージがするが、同社の現在までにいたる道筋はかなり起伏に富んでいる。同社は、大正10年に創立され、その後成長を続けたが、戦前期はベアリング業界では常に第3位の位置にとどまっていた。それが、戦後、とりわけ高度成長期に拡大戦略を遂行して飛躍的な成長を遂げ、業界トップの地位を得た。しかし、同社は昭和50年代初頭に経営に蹉跌をきたし、トヨタの援助を受けて再建されるという大きなドラマを経験しているのである。したがって、同社の社史をひもとく時は、こうした成長から蹉跌、さらに再建という流れがどのように描かれ、分析されているのかが、関心のひとつのポイントとなる。その点では、この社史はかなりの程度、その関心を満足させるのに成功している。とくに、通常の社史であまり触れがらない経営の行き詰まりの局面にも相当なスペースを割いており、自社の過去に正面から取り組もうという姿勢が伝わってくる。また、全体の叙述や分析の水準も高く、その面でもかなり優れた社史とすることができる。ただ、全体を精読するといくつかの気になるところがある。

この社史は本文 481ページと資料・年表82ページからなる。本文の構成は、ほぼ四つの部分に分けられている。戦前期と、戦後復興から第二次高度成長期、石油ショック以後の経営の行き詰まり局面、そして再建過程とその成果が一つのまとまりを構成しているのである。

この四つの部分のうち、第一の戦前期については、ベアリング工業の展開過程の分析に比重がおかれており、むしろベアリング工業史という側面が強い。叙述はやや専門的すぎる面があり、研究論文を読んでいる気持ちになることがあったが、そうした分析の上にとって、同社の生成、成長が描かれているから、この工

業の中での同社の位置づけが非常に理解しやすかった。しかし、そうした工業史の分析に比べると、同社自体の内的な状況については案外に割かれているスペースが少なく、社史としてみた場合、なにかもの足り無さを感じさせる。これは残存資料との関係もあるのであろうが、戦後の部分がむしろ内的状況が中心となるから、どうしても違和感がある。

戦後の復興から高度成長期については、戦前に3位であることからの悲哀を感じた同社の創業者池田善一郎の業界首位への意欲が、トップ主義という経営方針を生みだし、同社がそれに向かって邁進する様子が、他社との比較も取り入れながら描写されており、非常にわかりやすい。また、そうした成長拡大路線が二代目社長にも引き継がれ、さらに促進されていくが、この拡大主義故に、ニクソンショック後の環境状況の変動に対応できず、経営が悪化していく様子もよく描写されている。しかし、一つ気になるのは、こうした過程で生じてくる経営の悪化がなぜ致命傷になるほどまで、社内において認識できなかったのか、という点である。この社史では、その部分の分析が非常に希薄で、いきなり経営の悪化が問題とされているにすぎない。しかもその認識は外部の金融機関の危機感として現れ、その主導の下で再建が図られるという書き方になっている。なにげなしに読むと、筋が通っているように見えるが、少し考えてみると、なぜそれ以前に手当てができなかったのかという問題が欠落していることに気がつく。また、この間に社内でも当然コンフリクトがあったはずであるが、それらにはほとんど触れられていない。分析と叙述は外部からなされる経営分析の趣があり、やや外面的すぎるきらいがあるのである。社史としては一番書きにくい部分なのであろうが、もっと踏み込んだ書き方もできたのではなかったか、という思いが強く残る。なお、再建を主導したトヨタと同社との再建過程での関係についても、もう少し経営への影響に引きつけた説明があってもよかったように思われる。(柴 孝夫)



## 候補作品

### 『信越化学工業社史』

信越化学工業株式会社社史編纂室編集 信越化学工業株式会社発行

1992年10月 497p 27cm

大正15（1926）年に、長野県の有力電力会社であった信濃電気と、のちに新興財閥の雄に発展する日本窒素肥料とが提携して、新潟県の直江津に工場を置く信越窒素肥料を設立した。そして、この会社は昭和15年にその名を信越化学工業と改めるが、本書は、この会社の創業以来65年の歴史を五つの時期に区分してまとめたものである。

本書の最大の特徴は、多岐にわたる製品を製造する化学会社の歴史を、それぞれの時期に中心となる主要製品（事業）にしぼって、その開発・生産・販売の歴史的推移を、日本の経済や産業構造の変化と関連させながら詳細にあとづけたことにある。当社の母体となった二つの会社は、ともに水力系電力事業からスタートして、そこに生ずる余剰電力を工業的に利用することを目的としていた。したがって、この両社によって設立された当社は、この電力を利用してカーバイドや石灰窒素を製造することをその事業の主たる柱としていた。そして、第二次大戦中は、これらを製造する設備である電気炉を有効利用して合金鉄等を製造する金属事業を併せ営んだ。ところが、第二次大戦後になると、金属事業はその製品のほとんどが軍需向けであったため、民需転換を図らねばならず、カーバイド・石灰窒素事業も、主需要先の農業の行き詰まりや尿素・塩安との競合による石灰窒素需要の頭打ちによって発展の限界に逢着した。そこで当社は、昭和29年4月に、シリコン、有機合成、純粋金属を基幹事業とするの方針を決定した。シリコンは、当社が古くから手掛けていた金属珪素の延長線上の製品であり、純粋金属も金属事業につらなっていた。また、有機合成はカーバイドから作られるアセチレンと関連していた。当社の昭和30年代以降の課題は、既存の主力製品である石灰窒素の収益力がある間に、いかにしてこれらの新製品、新事業への転換を図るかということであったが、当社は、内外の有力メーカーとの提携によって自ら

の経営資源の不足をカバーしつつ、歴代経営首脳の的確・果敢な意思決定によって、この転換に成功し、シリコン、塩化ビニール、半導体シリコンの有力メーカーとなった。現在当社は、塩化ビニールでは世界のトップメーカー、半導体シリコンでは日本のトップメーカー（ただし、主体は100%子会社の信越半導体）、シリコンでも日本の代表的メーカーの一つとなっている。このドラマティックな製品・事業の転換過程についての記述は、きわめて興味深い。とりわけ、この転換に際し、有力外国資本との提携によって初期の経営資源の不足を補いつつ、徐々に技術やノウハウを身につけて最終的には合弁子会社を100%の子会社にしてしまう戦略には、国内有力メーカーとの関係における同種の戦略と合わせて同社の面目躍如たるものがある。

このほか、事業の国際化や同社グループ傘下の関係会社群についての詳細な記述も、この社史を特徴あるものにしてている。

ただし、本格的社史の基準に照らしてみた場合、本書にも注文したい点がある。

一つは、率直な印象として、本書の記述には本社の影が薄いという感を否めないということである。たとえば、昭和29年に行われた上述の方針決定や昭和40年代の「大転換」や50年代の経営危機について、それぞれに触れられてはいるものの、これらのエポックに際して、本社レベルでそれぞれの状況が経営首脳によってどう認識され、戦略の選択をめぐってどういう議論が交わされていたのか、そして選択された方針がどう実行され、どういう結果が生まれたのか、という点について本社レベルの意思決定や経営管理上の諸問題がもう少しまとまったかたちで記述されてもよかったのではないだろうか。

第2に、当社が小坂家の事業としてスタートしながら徐々にその色彩を薄めて行く過程についても、株式所有と経営管理の両面からもう一歩突っ込んだ記述が望まれるところである。（山崎広明）

## 候補作品

### 『中央信託銀行30年史』

中央信託銀行株式会社社史編纂委員会編集 中央信託銀行株式会社発行  
1993年1月 584p 27cm

中央信託銀行は、1962（昭和37）年4月、長短金融の分野調整、銀行・信託の分離という大蔵省の方針に沿って、「東海銀行の信託部門、第一信託銀行の信託部門、日本証券代行の証券代行部門を基礎に、日本興業銀行と日興・山一・大和の3証券（以上、日本証券代行の株主）および第一銀行の協力を得て設立され」（本書P.1）た。本書は、同社が刊行した初めての社史である。

本書の記述の中でとくに目を引くのは、中央信託銀行が強味をもつ証券代行業務の展開を記した部分である。昭和40年の代行事務の能率推進に関する総合調査、43年の証券代行事務センターの開設（本書 P.127によれば、「証券代行事務センターの完成により、機能を1ヵ所に集中したメリットははかりしれないものがあり、その後の証券代行業務発展の礎ともなる画期的なことであった」）、53年の信託銀行としては最初の法務課の設置などは、同社の証券代行分野における競争優位の源泉となり、それは、たとえば、61年の日本電信電話（NTT）の証券代行業務の受託をもたらした。

また、本書の年金業務に関する記述は比較的充実しており、年金基金の受託先の動向をある程度知ることができる。これは、既刊の他の信託銀行の会社史ではあまり見受けられない点であり、本書のもついま一つのメリットとすることができる。

本文の末尾に掲載されている「座談会／30年を振り返って」（平成3年12月）の記録も、なかなか興味深い。興銀や第一銀行、東海銀行の行員だった人びとが新設の中央信託銀行への転籍を命じられたときの戸惑い、野村証券主導で昭和34年に設立された東洋信託銀行に対する強烈なライバル意識、証券代行業務をめぐる競争激化についての危機感、などに関する座談会参加者（現職ないし元職の役員）の発言は、リアリティーに富んでいる。

しかし、以上のようなメリットをもちつつも、本書の全体的な出来映えに関し

ては、やや辛い点数をつけざるをえない。その理由は、以下の諸点に求めることができる。

まず、会社史がはたすべき基本的機能の一つである経営情報の開示という面で、不十分なことである。このことは、信託銀行の既存の優秀な会社史（たとえば、『住友信託銀行50年史』）と比較すれば、一目瞭然である。

次に、より重大なことであるが、記述が平板で、歴史分析になっていないことである。このことは、各章の時期区分が、5年ごとに機械的になされており、自社の発展過程に関する何らかのポジティブな歴史観をふまえたものになっていないことに、端的に示されている。本書の中でしばしば言及される3～5年ごとの中期経営計画の対象時期も、各章の時期区分とは必ずしも合致しない。

分析の不十分性は、次のような点にも現れている。それは、各々の中期経営計画が何をめざしたかについては書いていても、それがどのような結果をもたらしたかについてはあまり書いていないことである。このことは、あるいは中期経営計画が経営の実際の指針としてはさして意味をもたなかったという事情を反映しているのかもしれないが、だとすれば、中期経営計画に重きをおいて叙述すること自体が問題だということになる。

上記のような理由から、本書は優秀会社史賞の入選作品には該当しないというのが、選考委員会の結論である。

（橘川武郎）

## 候補作品

### 『創業百年史』

株式会社丸運編集・発行

東京 1993年 5月 679p 27cm

小運送業から総合物流事業に多角化した企業として、同社は地味ではあるが、有力な存在である。ところが、同社の源流が明治期の静岡地方財界人として名高い金原明善が創立した天竜運輸であることを知る人は少ないであろう。どうして金原の地方事業である天竜運輸が100年をへて今日の丸運に発展することができたか？これは大変興味あるテーマだし、本書が第一次選考をパスした理由もそのへんに求められるであろう。実際、金原銀行支配人竹内徳平（のち龍雄）が天竜運輸支配人になり、さまざまな経営の新機軸を打ち出しつつ、危機を乗り越え、全国に営業圏をひろげ、小運送会社として大成して行く過程にかんする記述は大変興味深いものがある。

ところが、この天竜運輸の創業・発展の段階をすぎるところから、本書は大変わかりにくくなって来る。わかりにくい理由は大きく言って二つある。

本書は、冒頭において社祖金原明善の生い立ちと事業観、人生観を語るところから始まっている点が物語るように、金原の理念を軸に天竜運輸→丸運の歴史を語ることを目的としているようである。しかし、その歴史はまことに複雑なのである。天竜運輸は、小運送業者の常として、同業者との間の離合集散の渦の中にまき込まれ、これに官庁や政治家がからむ。まず、このプロセスがわかりにくいのである。小運送業者の合同体の話と天竜運輸の話との関連をたどるのに大変骨が折れる。

こうした推移と金原の理念との関係が、もう一つのわかりにくい点である。日本運送－国際運送－合同運送（国際通運）という合同体の中に金原明善以来の創業精神が流れていたという記述が何回も出て来るが、実体がかめない。

しかも、戦時体制下、天龍運輸、その子会社天龍運送が日本通運に統合され、孫会社、株式会社天龍組が天龍運輸と改称し、金原の精神を継ぐ会社として戦後

再スタートしかける。ところが、大野伴睦らの政治家が介入し、日本鉱業の資金的バックの下に鉄道木下組と昭和25年に合併し、天竜木下運輸と称する。これが35年に株式会社丸運になる。本書は、当然、金原明善の創業精神が天竜木下運輸－丸運の歴史に受け継がれているという立場をとるが、具体的にそれらの企業行動のいかなる側面に金原精神が受け継がれ、生きているのか、よくわからない。もちろん、社長の就任挨拶や創業百周年を記念しての明善研修所開設の記事の中に金原精神という言葉はくり返し出現する。しかし、理念が、複雑な企業経営の変遷と無関係に語られるから、わかりにくいし、たんなる修飾としか受け取れない。

本書に対する批判をもう一つ記すと、創業以来の百年とまでは言わず、せめて丸運時代に範囲を限ってもいいから、丸運の企業成長を可能ならしめた経営内の要因（戦略、資源、政策手段等の）を主体的に説明する手法をとれなかったものかと思う。各段階において採用された政策諸手段にかんする事実が雑然と羅列されているだけでは物足りない。

たしかに、いろいろなことが出てくる。長期事業計画、事業部制、支店組織の拡大再編、運送部門の業績低下に対応する総合物流体制のための新規事業（路線トラック、重量品輸送、石油等の液体輸送、利用航空運送、宅配便、流通倉庫業、梱包業等々）、ターミナル新設整備、経営合理化、目標管理と査業制、労組対策、厚生福利制度、安全対策……。

読者が知りたいのは、これらの諸施策の中のどれが、同業他社に対して先駆的で、丸運の競争優位につながり、成長に貢献したかである。どれが丸運の経営体質を変えるのに最も役立ったかである。どこの会社でもやっていること、どこかの会社がとくにやっていることをいちいち書くのでは、業界団体史ですむことで、社史の必要はない。

私は、本書の資料のうち、各決算期の当期利益金の動きを通じて、天竜木下運輸以来の約40年の経營業績を見、その不安定性のいちじるしさに興味を覚えた。大黒字－低迷－大黒字－低迷－大赤字といった激しい変動がどこから来るのか、小運送業界あるいは総合物流業界の構造的な特徴なのか、それとも、当社の経営体質によるのか、ぜひ社史から知りたかったのだが、むなしい期待に終わった。

（森川英正）

## 候補作品

### 『三井東圧化学社史』

三井東圧化学株式会社社史編纂委員会編集 三井東圧化学株式会社発行  
東京 1993年3月 1032p, 27cm 索引あり

三井東圧化学の前身である二つの企業は、東洋高压が1933年設立、三井化学は1941年と案外に新しい。しかし、周知の通り、三井の化学工業の歴史はるかに遡って1912年に、三井鉱山がコッパース炉の操業を開始し、回収されたアンモニアと硫酸から硫酸安を生産した時に始まる。こうして、三井鉱山の石炭を出発原料として成長した三井の化学事業は、合成染料の事業を確立し、アンモニア合成と肥料事業を加え、1930年代には大牟田に石炭化学コンビートを形成するまでに発展し、住友や三菱のそれに、はるかに優る範囲と規模を備えていた。戦時中には、さらに合成ゴムの生産などを目指して、アセチレン系統の有機合成化学やポリスチレンなど合成高分子に関する研究や試作が行われ、フィッシャー法による人造石油の企業化も進められた。

戦後は、東洋高压は自社開発の尿素技術を拠り所にして肥料を中心に成長し、アンモニアのガス源転換を機に、天然ガス化学から石油化学へと向かった。他方、三井化学（および三池合成）は、塩化ビニル樹脂の生産を開始し、いち早く石炭化学に代わるべき石油化学工業の将来性に着目した。チグラー法ポリエチレンの技術導入に成功した三井化学は、東洋高压をはじめとする他の三井系企業とともに三井石油化学を設立した。しかし、三井化学はその後、自らも石炭化学からの脱皮のためにポリプロピレンやポリウレタンなど、石油化学の分野へと事業を進めた。1968年に同じく石油化学へと向かっていた東洋高压と三井化学はエチレン30万トン基準を設定して、国際競争力の確保を目指していた通産省の示唆もあって対等合併し、三井東圧化学が誕生したのである。

このように明治末年に始まる三井系の化学企業の歴史は、同時にわが国の化学工業史の主要部分を構成している。また、合成染料に始まる一連の化学製品は、三井にとっては主力の鉱山事業からの多角的な事業展開がもたらした成果であっ

た。したがって、この企業の社史には、わが国の化学工業の発達史としての記述や財閥の経営史といった観点からの分析を期待する読者も少なくないであろう。この社史の最大のメリットは、バランスのとれた構成と平明な文章で、これらの期待にかなりの程度まで応えてくれていることである。

とくに、戦前および戦中までの三井の石炭化学工業の発展過程と三井化学の発足前後の状況に関する前半部分は、化学工業史や財閥史的な背景の説明も過不足なくほどこされている。コッパース炉の操業状態、三池炭の кокс炭としての限界など、従来はあまり指摘されなかった事実や各社の硫酸のコスト比較のデータなども含まれていて秀逸である。

これに対して、戦後の各編については、東洋高压の尿素プロセスの開発史や三井化学のチグラー法との出会いなど、工業史的な側面の記述が生彩に富んでいるのに較べて、経営史的な視点からの分析がやや弱いように思われる。三井系の化学企業が共同して三井石油化学を設立する過程や、三井石油化学の千葉における拡張計画と三井化学および東洋高压の両社の堺・泉北における石油化学計画の競合と調整の過程は、戦後の企業集団内の企業間関係のあり方や合併統合の難しさを理解するための絶好の事例である。もちろんこれらの問題についても、一応の経過は説明されてはいるし、『三井石油化学20年史』のそれに較べればはるかに充実している。しかし依然として説明不足の印象が否めない。上記三社に三池合成を加えた四社の企画委員会の活動状況や、その調整能力の限界、通産省の行政指導の影響力の源泉などについて、より踏み込んだ記述が欲しい。そうでないと三井系の化学会社が共同して設立した三井石油化学が1960年代に入ると独自の道を歩みはじめ、三井東圧化学と並立して現在に至っている本当の理由がよくわからないからである。

(大東英祐)

優秀会社史賞（第1回～第8回）入賞作品

（会社名：50音順）

第1回（1978年）

優秀会社史賞

- 『大塚製靴百年史』，同『資料』 1976年1月 780p, 360p 23cm  
『住友信託銀行五十年史』，同『別巻』 1976年3月 1309p, 222p 27cm  
『第一法規出版株式会社七十年史』 1973年9月 588p 27cm  
『第四銀行百年史』 1974年5月 986p 27cm  
『東レ五十年史1926～1976』 1977年6月 542p 28cm  
『創業100年史』（古河鋳業） 1976年3月 786p 27cm  
『三菱鋳業社史』（三菱鋳業セメント） 1976年6月 1063p 27cm  
『安田保善社とその関係事業史』 1974年6月 1022p 27cm

優秀会社史賞 特別賞

- 『荒川林産百年史』（荒川化学株式会社）1977年4月 492p 22cm  
『渋沢倉庫の八十年』（Ⅰ）（Ⅱ） 1977年3月 382p, 372p 21cm  
『慕進 日本車輛80年のあゆみ』（日本車輛製造） 1977年5月 462p 30cm  
『日本陶器七十年史』 1974年12月 62p 29cm  
『三井銀行100のあゆみ』 1976年7月 337p 22cm

第2回（1980年）

優秀会社史賞

- 『鹿児島銀行百年史』 1980年2月 1155p 27cm  
『グンゼ株式会社八十年史』 1978年11月 1054p 27cm  
『日揮五十年史』 1979年3月 600p 28cm  
『創業百年史』（広島銀行） 1979年8月 1153p 28cm

優秀会社史賞 特別賞

- 『新井清太郎商店九十年史』 1979年11月 661p 23cm  
『カゴメ八十年史 トマトと共に』 1978年11月 632p 29cm

第3回(1982年)

優秀会社史賞

- 『東京海上火災保険株式会社百年史』上・下巻 1979年8月, 1982年3月 775p, 1033p  
27cm  
『富士銀行百年史』, 同『別巻』 1982年3月 1400p, 537p 27cm  
『創業百年史』(北陸銀行) 1980年9月 1039p 27cm

優秀会社史賞 特別賞

- 『世界への歩み トヨタ自販30年史』, 同『資料』(トヨタ自動車販売)  
1980年12月 612p, 214p 29cm  
『ブリヂストンタイヤ株式会社五十年史』, 同『資料』  
1982年3月 532p, 78p 22cm  
『明治生命百年史』 1981年7月 405p 21cm

第4回(1984年)

優秀会社史賞

- 『西部瓦斯株式会社史』, 同『資料編』 1982年12月 1027p, 182p 29cm  
『住友化学工業株式会社史』 1981年10月 890p 22cm  
『武田二百年史』, 同『資料編』(武田薬品工業)  
1983年5月 1145p, 737p 26cm  
『中國銀行五十年史』 1983年4月 1125p 29cm  
『日本興業銀行七十五年史』, 同『別冊』 1982年3月 1236p, 461p 26cm

優秀会社史賞 特別賞

- 『而至六十年史』(而至齒科工業) 1983年1月 745p 26cm  
『さわやか25年 東京コカ・コーラボトリング株式会社 社史』  
1983年1月 296p 29cm  
『三井両替店』(三井銀行) 1983年7月 502p 22cm

第5回(1986年)

優秀会社史賞

- 『中安閑一伝』(宇部興産) 1984年10月 896p 27cm  
『創業百年史』, 同『資料』(大阪商船三井船舶)  
1985年7月 863p, 300p 27cm  
『東急建設の二十五年』, 同『資料編』 1985年10月 637p, 453p 23cm  
『阪神電気鉄道八十年史』 1985年4月 627p 27cm  
『琉球銀行三十五年史』 1985年3月 816p 27cm

優秀会社史賞 特別賞

- 『住友銀行史 昭和五十年代のあゆみ』 1985年11月 381p 27cm  
『三菱重工名古屋航空機製作所二十五年史』 1983年12月 722p 26cm

第6回(1988年)

優秀会社史賞

- 『伊予鉄道百年史』 1987年4月 1129p 27cm  
『関西地方電気事業百年史』 1987年10月 999p 27cm  
『百年史 東洋紡』上・下巻 1986年5月 573p, 652p 22cm  
『三菱倉庫百年史』, 同『編年誌・資料』 1988年3月 721p, 315p 27cm  
『めんづくり味づくり 明星食品30年の歩み』 1986年10月 657p 26cm

優秀会社史賞 特別賞

- 『創造限りなく トヨタ自動車50年史』, 同『資料編』

1987年11月 1030p, 321p 22cm

第7回(1990年)

優秀会社史賞

『朝日生命百年史』 上・下巻 1990年3月 1008p, 990p 26cm

『東京製鋼百年史』 1989年4月 720p 26cm

『日本アイ・ビー・エム50年史』, 別冊『コンピューター発達史 — IBMを中心にして —』, 『情報処理産業年表』 1989年10月 576p, 308p, 364p 26cm

優秀会社史賞 特別賞

『創造への挑戦 豊田合成40年史』 1990年3月 400p 26cm

『日本郵船株式会社百年史』, 別冊『同資料』, 『近代日本海運生成史料』  
1988年10月 920p, 902p, 590p 26cm

第8回(1992年)

優秀会社史賞

『味をたがやす 味の素八十年史』 1990年7月 767p 27cm

『住友別子鉱山史』 上巻・下巻, 同『別巻』

1991年5月 505p, 438p, 271p 27cm

『セゾンの歴史』 上巻・下巻, 『セゾンの活動』 年表・資料集

1991年4月, 1991年6月, 1991年11月 458p, 647p, 636p 23cm

『日本生命百年史』 上巻・下巻, 同『資料編』

1992年3月 773p, 654p, 639p 26cm

優秀会社史賞 特別賞

『新たな飛躍・新たな挑戦 セーレン百年史』 1990年11月 737p 27cm

経営史科センター所蔵

# 会社史目録

1992年4月～94年3月刊行

・この目録の書誌事項は次の順序で記載した(会社名の50音順)

会社名 書名 編著者

出版地 本の大きさ(cm) 出版年月 ページ数(p) 年表p〇～〇 備考(\*)

Arab Heavy Industries Ltd. AHI との17年 モデック  
東京 171p 年表p168~171

(株)愛媛銀行 ふるさととともに 愛媛銀行の五十年 愛媛銀行五十年史編纂委員会室編  
松山 22cm 1993.07 626p 年表p565~623  
\*愛媛無尽→1951年愛媛相互銀行, 1989年普通銀行に転換

(株)IMAGICA 光へ人へIMAGICA映像の55年  
東京 29cm 1992.02 年表p306~343  
\*1935年極東現像所, 42年東洋現像所, 86年IMAGICA

アイダエンジニアリング(株) AIDA75年 1917-1992 AID75年史編集委員会編  
相模原 27cm 1992.09 356p 年表p332~351  
\*プレス機械製造, 1970年会田プレス工業を改称

愛知海運(株) 愛知海運50年史  
名古屋 27cm 1993.03 335p 年表p304~333

赤坂建設(株) 創業80周年記念誌 空と大地と木と共に歩んで80年  
北海道 26cm 1992 60p

(株)秋山愛生館 北のいのちとともに 100年史 100年史編纂委員会編  
札幌 1993.03 214p 年表p200~211

(株)浅沼組 浅沼組100年 株式会社浅沼組社史編纂事務局編  
大阪 27cm 1992.12 6,565p図版16枚 年表p519~563  
\*関西系中堅建設業

(株)あさひ銀行 埼玉銀行通史 埼玉銀行通史編纂室編  
東京 27cm 1993.12 704p 年表p644~678  
\*旧行名, 埼玉銀行1911年協和銀行と合併

尼崎信用金庫 尼崎信用金庫七十年史 尼崎信用金庫編  
尼崎 27cm 1992.06 549p 図版8枚 年表p499~548

荒川信用金庫 荒川信用金庫70年史  
東京 31cm 1993.02 99p

アラビヤ石油(株) 湾岸危機を乗り越えて アラビヤ石油35年の歩み  
東京 27cm 1993.12 312p 年表p296~307

五十嵐冷蔵(株) 五十嵐冷蔵70年史 社史編集委員会編  
東京 31cm 1992.- 143p 年表p133~141

石川島播磨重工業(株) 石川島播磨重工業史 技術・製品編 石川島播磨重工業株式会社総務部  
総括部社史編纂担当編

東京 29cm 1992.04 532p  
石川島播磨重工業史 沿革・資料編  
東京 29cm 1992.04 211p 年表p107

今中(株) 才覚と算用 今中化株式会社社史編纂委員会編  
大阪 26cm 1993.12 219p

伊予銀行 伊予銀行五十年史 伊予銀行五十年史編纂委員会編  
松山 27cm 1992.06 1303p図版13枚 年表p1086~1297  
\*1941年伊予合同銀行発足, 1951年行名変更

潮田三国堂薬品(株) 潮田三国堂薬品100年のあゆみ  
水戸 27cm 1993.07 8,303p 図版8枚 年表p315~330

江崎グリコ(株) 江崎グリコ七十年史 江崎グリコ編纂  
大阪 27cm 1992.05 371p 年表p338~361

NOK(株) NOK50年の軌跡  
東京 29cm 1993.02 8,260p 年表p251~258

エヌエスケー・トリントン(株) 21世紀に向かって エヌエスケー・トリントン30周年  
高崎 1993.06 75p 年表p74~75

エフエム群馬 エフエム群馬7年のあゆみ:時代の声を伝えて いつも素敵なsomething  
エフエム群馬社史編集委員会編  
前橋 42cm 1992.04 227p

遠州鉄道(株) 遠州鉄道50年史  
浜松 27cm 1993.11 322p 年表p291~322

オーベクス(株) オーベクス100年史 オーベクス株式会社社  
東京 27cm 1993.03 231p 年表p21



(株)大分銀行 大分銀行百年史 大分銀行百年史編集委員会編  
大分 27cm 1994.01 855p 年表p726~853  
\*1927年第二十三国立銀行と合併し大分合同銀行と改称, 1953年大分銀行と改称

(株)大沢商会 創業100年史 大沢商会 社史編集委員会編  
東京 27cm 1992.06 299p 年表p271~298

(株)大林組 大林組百年史 1892-1991 大林組社史編集委員会編  
東京 29cm 1993.06 967p  
大林組百年史 資料編  
東京 29cm 1993.06 376p 年表p330~376

大森石油(株) 和を奏でる 大森石油と喜代三郎会長 中部経済新聞社編著  
名古屋 21cm 1992.04 345p 年表p325~343

(株)岡島新聞舗 歩み続けて百二十年  
大阪 27cm 1992.04 381p 年表p369~380

(株)岡本 社史 岡本創業三百年史 株式会社岡本編  
東京 27cm 1992.07 394p図版6枚 年表p370~394  
岡本創業三百年史 歴代紙屋弥兵衛史考証 岡本銑一郎著 株式会社岡本編  
東京 27cm 1992.12 187p 図版4枚 折り込表1枚 年表p164~184

岡本無線電機(株) 電子部品流通と共に 岡本無線電機50年史 岡本無線電機(株)社史編集委員会編  
大阪 27cm 1992.06 153p 年表p145~152

尾道造船(株) 尾道造船株式会社50年史  
神戸 27cm 1993.02 213p 年表p206~213

オリックス(株) O R I X The First Quarter Century and Beyond  
東京 28cm 1992.9 208p 年表p192~206

花王(株) 花王史100年 1890~1990 財団法人日本経営史研究所, 花王株式会社社史編集室編  
東京 27cm 1993.03 905p  
花王史100年・年表/資料 花王社史編集室編  
東京 27cm 1993.03 285p  
\*花王石鹼(株)1985年社名変更

(株)香川銀行 香川銀行五十年史 50年史編集委員会編  
高松 27cm 1993.11 633p 年表p580~631  
\*香川無尽, 1951年相互銀行, 1989年普通銀行に転換

カシヨ(株) カシヨ株式会社 100周年記念誌 Trad & trend  
〔長野〕 30cm 1992.06 114p 年表p108~114  
\*印刷会社

柏井紙業(株) 清流, 永遠に 柏井紙業株式会社・80年史 神戸新聞事業社編  
神戸 31cm 1992.04 192p 図版2枚

神奈川臨海鉄道(株) 神奈川臨海鉄道30年史 神奈川臨海鉄道社史編集委員会編  
川崎 27cm 1993.06 182p 年表p162~182

川鉄鉄構工業(株) 時代の技術・次代の技術  
東京 22cm 1993.03 96p 年表p88~89

(株)関東銀行 関東銀行40年のあゆみ 関東銀行企画部編集制作  
土浦 26cm 1993.01 114p 年表p104~114

関東情報システム(株) 関東情報システム二十五年史  
西宮 27cm 1993.06 180p図版7枚 年表p168~179

関東鉄道(株) 関東鉄道株式会社70年史 関東鉄道株式会社社史編集室編  
土浦 27cm 1993.03 565p 年表p543~565  
\*初の社史。1965年鹿島参宮鉄道・常総筑波鉄道合併

共栄火災海上保険(相) 共栄火災海上保険相互会社五十年史 50周年社史編集委員会編  
東京 27cm 1993.03 28,899p図版4枚 年表p852~891

共積信用金庫 共積信用金庫七十年史 共に積み共に栄えて  
東京 21cm 1993.09 112p

(株)近畿銀行 近畿銀行五十年史 近畿銀行総合企画部広報室編  
大阪 27cm 1994.03 859p 年表p816~857  
\*近畿無尽, 1951年相互銀行, 1989年普通銀行転換

共同精版印刷(株) 五十年のあゆみ 記念誌編集委員会編  
奈良 22cm 1992.12 320p 年表p7~14

共同建物(株) 共同建物60年史  
東京 27cm 1993.12 194p 年表p182~194

キーコーヒー(株) キーコーヒー70年史  
東京 27cm 1993.04 278p 年表p221~275

北九州コカ・コーラボトリング(株) いま輝く  
福岡 29cm 1993.03 235p 年表p221~234

金商又一(株) 又一株式会社小史  
東京 22cm 1993.07 200p

岐阜乗合自動車(株) 五十年の歩み 社史編集委員会編  
岐阜 27cm 1994.03 278p

(株)熊日広告社 くまもとの広告 明治から平成まで  
熊本 28cm 1992.04 152p 年表148~151  
\*付:熊日広告社二十年史

熊本日日新聞社(株) 熊日五十年史  
熊本 27cm 1992.10 643p

(株)倉敷アイビースクエア 倉敷アイビースクエア二十年史 株式会社倉敷アイビースクエア編  
倉敷 27cm 1993.05 32,127p 年表p106~125

栗田出版販売(株) 栗田出版販売七十五年史 栗田出版販売七十五年史編集委員会編  
東京 27cm 1993.06 16,450p図版6枚 年表p415~447  
\*創業者の伝記あり

呉羽ゴム工業(株) 呉羽ゴム50年史 クレハエラストマー株式会社編  
大阪 27cm 1993.12 293p(図版共) 年表p284~292  
\*社名変更:呉羽ゴム工業(株)→1993.9クレハエラストマー(株)

(株)京葉銀行 京葉銀行五十年史 (株)日経スタッフ  
千葉 27cm 1994.01 508p  
\*千葉合同無尽, 1951年千葉相互銀行, 1989年普銀転換, 行名変更

(株)研究社 研究社八十五年の歩み  
東京 25cm 1992.12 309p 出版年表p100~309

コスモ石油(株) 新たなる旅立ち コスモ石油創立5年の軌跡 (株)コスモ総合研究所社史編纂準備室編  
東京 26cm 1993.06 632p 年表p614~627

(株)東亜興信所 東奔西走百年の歩み 東亜興信所  
大阪 27cm 1992.03 251p

(株)神戸鋳鉄所 革新と創造 神戸鋳鉄所75年史 社史編纂委員会編  
神戸 31cm 1992.03 203p

光洋精工(株) 光洋精工70年史 財団法人日本経営史研究所編  
大阪 27cm 1993.03 581p図版7枚折り込表1枚 年表p540~570

小松精練(株) 色いろ染めて半世紀 ある染色会社の軌跡 中谷正著  
石川 22cm 1993.10 456p 年表p433~453

(株)コムテックス EYE BOX 21世紀の印刷と視覚情報 株式会社カマル社編  
大阪 31cm 1992.04 147p  
\*創立30周年記念誌, 旧社名大阪ヤマトヤ商会

小山(株) 小山100年史 小山株式会社社長室編  
奈良 27cm 1993.04 309p 年表p281~298  
\*寝具のリース

(株)さいか屋 おかげさまで120年:株式会社さいか屋小史 さいか屋編  
横須賀 14cm 1992.04 21p

(株)西京銀行 西京銀行六十年史 西京銀行社史編纂室編  
徳山 27cm 1992.05 584p 図版8枚 年表p532~581  
\*旧行名:山口相互銀行

埼玉自動車(株) 埼玉自動車50年史 埼玉自動車株式会社社史編纂委員会編  
熊谷 27cm 1993.03 165p 年表p145~162

(株)笹田組 ささだ40 創立40周年記念誌  
〔横浜〕 31cm 1992.11 128p

三愛不動産(株) 飛翔 三愛不動産株式会社二十五年史  
東京 27cm 1992.08 413p

(株)山陰合同銀行 山陰合同銀行五十年史 山陰合同銀行五十年史編纂室編  
松江 27cm 1992.06 1009p 図版4枚 年表p950~996

山九(株) 山九七十五年史 『山九七十五年史』編纂委員会編  
東京 31cm 1994.03 425p 年表p388~423  
山九七十五年史各事業部門のあゆみ  
東京 31cm 1994.03 606p  
\*1990年岡崎工業合併、運送業

(株)サンケイ企画 サンケイホールの40年  
東京 31cm 1992.07 418p

四国電力(株) 四国電力40年のあゆみ 1951-1991  
高松 31cm 1992.06 361p 年表p327~361

四国ガス(株) 四国ガス80年史 明日へ青い炎の80年  
今治 27cm 1993.09 269p 年表p240~264

(株)静岡銀行 静岡銀行史 創業115年の歩み 静岡銀行50年史編纂室編  
静岡 27cm 1993.03 970p 図版7枚 年表p894~964

(株)資生堂 創ってきたもの伝えてゆくもの 資生堂文化の一〇〇年 株式会社資生堂企業文化部編  
東京 30cm 1993.02 421p 年表p399~420  
\*発売:求龍堂 ¥3900

島屋商事(株) 島屋商事70年史 島屋商事株式会社編  
大阪 29cm 1992.11 223p 年表p210~223

信越化学工業(株) 信越化学工業社史 信越化学工業株式会社社史編纂室編  
東京 27cm 1992.10 497p 年表p457~495

新日本製鐵(株) 未来を拓く 大分製鐵所20年史 新日本製鐵大分製鐵所編  
大分 29cm 1992.04 24,565p  
未来を拓く 大分製鐵所20年史 資料編  
大分 29cm 1992.04 4,113p 年表p81~113

新和海運(株) 新和海運三十年史 山本剛士著 財団法人日本経営史研究所編  
東京 22cm 1992.09 397p 年表p379~393

(株)ジュンテンドー 当たり前前に商い百年そして今から ジュンテンドー社史  
益田 27cm 1993.10 428p 年表p424~426

ジプロ(株) yesterday and tomorrow  
東京 31cm 1993.04 173p 年表p164~173

(株)スエヒロEPM おかげさまで40年 新しい首途へ 40周年記念誌編集委員会編  
四日市 31cm 1993.01 95p

須賀工業(株) 須賀工業90年史 須賀工業株式会社社史編纂室編  
東京 29cm 1992.11 221p 図版8枚 年表p207~218

鈴木合金(株) 鈴木合金75年史  
大阪 27cm 1993 214p

住友海上火災保険(株) 住友海上の100年-チャレンジの軌跡 住友海上火災保険株式会社社史編集室  
財団法人日本経営史研究所  
東京 19cm 1993.10 322p 図版8枚 年表p289~319

摂津信用金庫 摂津信用金庫二十五年史  
茨木 29cm 1992.05 191p 年表p138~143

星光化学工業(株) 星光化学工業四〇年史  
明石 18cm 1992.03 15,210p

(株)せとうち銀行 『せとぎん』創立五十周年記念特集号 創立五十周年記念特集号編集委員会編  
呉 26cm 1992.05 348p  
\*旧行名 呉相互銀行

タイガー魔法瓶(株) タイガー魔法瓶70年のあゆみ 1293-1993  
門真 29cm 1993.10 354p 図版10枚 商品年表p309~336 年表p338~354

(株)大気社 環境づくりの記録 社史編纂委員会編  
東京 27cm 1993.03 191p 年表p190~191

大正製薬(株) 大正製薬80年史 大正製薬株式会社社史編集事務局編  
東京 29cm 1993.06 20,543p 図版19枚  
大正製薬80年史 資料編  
東京 29cm 1993.06 300p 主要商品の変遷、年表p279~300ほか

大成建設(株)名古屋支店 街の響 山河の譜  
〔名古屋〕 31cm 1993.03 232p 年表p212~221  
\*大成建設株式会社名古屋支店60年史

大成建設(株)広島支店 街動・まち うごく 大成建設広島支店史  
広島 1992.08 163p  
\*付ビデオ

大成化学薬品(株) 大成化学薬品四十年のあゆみ 四十年史編纂委員会編  
東京 19cm 1992.03 9,194p 年表p180~189

大宝証券(株) 大宝証券三十年史 大宝証券株式会社編  
那覇 27cm 1992.04 273p 資料編p205~271

高砂熱学工業(株) 高砂熱学工業70年の歩み 社史編纂委員会編  
東京 29cm 1994.03 7,392p図版11枚 年表p367~390

(株)高島屋 高島屋美術部80年史  
大阪 1992.12 395p 年表p269~353

高嶋酒類食品(株) 120年のあゆみ 1871-1991 創業120年記念誌  
神戸 27cm 1993.03 175p 年表p167~174

タカセ(株) 120年のあゆみ  
東京 29cm 1992.12 323p 年表p307~321  
\*運送・倉庫業

タカノ(株) 人々とともに未踏を拓く タカノ半世紀の歩み 創業五〇周年社史編纂委員会編  
長野 27cm 1992.10 357p 図版5枚 年表p340~363  
\*バネ製造

武内プレス工業(株) 夢の実現 武内プレス工業120年のあゆみ 武内プレス工業(株)社史編纂事務局編  
富山 31cm 1993.12 356p図版7枚 年表p336~351  
\*容器, アルミチューブ製造

竹田理化学工業(株) 竹栄4  
東京 22cm 1993.11 410p 四十周年のあゆみ

大東京信用組合 創立40周年記念誌 新しい豊かさを求めて 創立40周年記念誌編纂委員会編  
東京 26cm 1992.09 158p 年表p152~157

(株)第一勧業銀行 第一勧業銀行 二十年史 (株)第一勧業銀行調査部編  
東京 27cm 1992.09 578p 年表p554~578

第一勧業銀行'93  
東京 28cm 1993.06 87p 年表p76~77

(株)第一印刷所 至誠を貫き五十年 第一印刷所創業50周年記念誌  
新潟 27cm 1993.09 514p 年表p487~508

ダイエーグループ ダイエーグループ35年の記録 ダイエー編  
大阪 21cm 1992.09 399p 年表p287~322  
\*グループ情報誌「ピーエス」増刊号

大旺建設(株) 大旺建設40年史  
高知 27cm 1992.09 341p 年表p331~339

(株)大広 大広百年史 株式会社大広編・発行  
大阪 27cm 1994.03 849p 年表p770~845

(株)大光銀行 大光銀行五十年史 創立50周年記念誌  
長岡 30cm 1992.12 165p 年表14~33p

(株)第三銀行 第三銀行八十年史 第三銀行八十年史編纂委員会編  
大阪 27cm 1993.06 805p 年表p754~805

(株)大東銀行 大東銀行50年のあゆみ 創立50周年記念誌  
郡山 28cm 1993.03 179p 年表p158~179

大有(株) 大有株式会社のあゆみ 40周年記念社史  
東京 27cm 1992.11 78p 年表p71~77

(株)ダスキン DUSKIN 30 YEARS 1963-1993 祈りの経営ダスキンの30年 第1巻 株式会社ダスキン編  
吹田 23cm 1994.03 387p

DUSKIN 30 YEARS 1963-1993 祈りの経営ダスキンの30年 第2巻  
吹田 23cm 1994.03 279p

DUSKIN 30 YEARS 1963-1993 祈りの経営ダスキンの30年 第3巻  
吹田 23cm 1994.03 481p

\*第1巻 創業物語, 第2巻 年表資料, 第3巻 文集

中央毛織(株) 中央毛織50年のあゆみ 明日を紡ぐ  
名古屋 27cm 1992.06 327p 年表p297~325

(株)中央信託銀行 中央信託銀行30年史 中央信託銀行社史編纂委員会編  
東京 27cm 1993.01 584p 年表p560~584

(株)中京銀行 人・まち・くらし 中京銀行の50年  
名古屋 30cm 1994.03 176p 年表p156~176

(株)中国新聞社 中国新聞百年史 中国新聞社史編纂室編  
広島 27cm 1992.12 369p, 511p  
中国新聞百年史 資料編・年表  
広島 27cm 1992.12 421, 90p 年表: 巻末p1~90

中国電機製造(株) 30年史  
〔広島〕 26cm 1992.07 115p

中部精機(株) 中部精機30年史 中部精機株式会社編  
春日井 27cm 1993.03 264p 年表p238~263

(株)築紫 匠 百年  
京都 31cm 1993.04 79p

(株)津田仁石油店 津田仁石油店 100年史  
大阪 23×23cm 1992.11 143p

都留信用組合 40年のあゆみ 創立40周年記念誌“つるしん40年のあゆみ”  
富士吉田 25cm 1992.08 96p

帝国石油(株) 庄内鉱山史 帝国石油秋田鉱業所編  
秋田 26cm 1993.09 280p 年表p3~11

帝人(株) 帝人の3/4世紀(年表)  
東京 31cm 1993.06 109, 47p

テルモ(株) 医療とともに—テルモ70年のあゆみ  
東京 29cm 1992.10 289p 年表p270~287

テレビ大阪(株) テレビ大阪10年の歩み  
大阪 27cm 1992.07 171p

(株)デザック 帝国産業からデザックへの50年  
大阪 30cm 1993 187p

(株)トーマン TOMEN CORPORATION 70 YEARS OF GROWTH  
東京 29cm 1992.05 234p (英文社史)

東亜紡織(株) 東亜紡織70年史  
大阪 27cm 1993 605p 年表p580~603

東映(株) CHRONICLE TOEI クロニクル東映 1947-1991〔I〕  
東京 22×31cm 1992.10 501p  
CHRONICLE TOEI クロニクル東映 1947-1991〔II〕  
東京 22×31cm 1992.10 95p〔ドキュメント東映全史〕  
CHRONICLE TOEI クロニクル東映 1947-1991〔III〕  
東京 22×31cm 1992.10 267p〔東映全作品リスト〕

東海カーボン(株) 東海カーボン七十五年史  
東京 27cm 1993 407p  
\*1992年東洋カーボンと合併

東岳興業(株) 東岳興業五十年の歩み  
27cm 1993.07 277p

東京日産自動車販売(株) 50 YEARS HISTORY OF TOKYO NISSAN 東京日産50年史  
東京日産50周年記念実行委員会編  
東京 30cm 1992.11 97p 年表p39~43, 53~57, 69~73

(株)東京機械製作所 東京機械製作所この拾年 百式十年史 東京機械製作所編  
東京 27cm 1993.09 32, 231p

東京労働金庫 東京労働金庫四十年史  
東京 27cm 1993.05 339p

東鉄工業(株) 東鉄工業五十年史 50年史編集委員会編  
東京 27cm 1993.11 361p(図版5枚) 年表p343~354

東電広告(株) 東電広告60年のあゆみ 東電広告株式会社編  
東京 27cm 1992.04 4, 155p 年表p138~154

(株)東武百貨店 グッドデパート東武百貨店 30年の歩み 東武百貨店社史編纂室編  
東京 29cm 1993.01 321p 年表p298~321

東邦ガス(株) 最近10年の歩み-1992  
名古屋 29cm 1993.03 275p 年表p223~275

(株)徳陽シティ銀行 50年のあゆみ 徳陽シティ銀行年史編纂委員会編  
仙台 31cm 1993.12 107p  
\*旧行名 徳陽相互銀行

苫小牧東部開発(株) 苫東の二十年 この10年のあゆみを中心として 苫小牧東部開発「苫東の二十年」  
札幌 27cm 1992.07 167p 年表p155~167 編集委員会編

富田製菓(株) 富田製菓百年のあゆみ  
鳴門 27cm 1992.10 617p 年表p579~613

トヨタカローラ足立(株) トヨタカローラ足立株式会社30年史  
東京 30cm 1993.09 71p

中野冷機(株) 冷一開発75年の歩み 小松鍊平著  
東京 27cm 1992.03 189,83p 年表p24~83  
\*創業者伝記あり

長崎放送(株) 長崎放送編年史 40周年 長崎放送株式会社編  
長崎 27cm 1992.12 277p

永野工業(株) 永野工業創業50年史 熊本の左官業と永野克己の人生  
熊本 27cm 1992.05 190p  
\*創業者の伝記

名古屋テレビ放送(株) 名古屋テレビ放送30年 名古屋テレビ放送社史編纂委員会編  
名古屋 27cm 1992.04 323p 年表p253~323

(株)ナリス 企業と化粧を考える 株式会社ナリス化粧品60周年記念誌編纂委員会企画・編纂  
大阪 27cm 1992.04 63p  
化粧品をつくらしている者の考えること  
大阪 27cm 1992.04 43p 年表p40~43

(株)日刊スポーツ新聞北海道本社 三十年の歩み 日刊スポーツ新聞北海道本社30年史  
札幌 27cm 1992.05 252p 年表p241~246

日航商事(株) 日航商事30年史 社史編纂委員会編  
東京 27cm 1992.03 10,281p 年表p255~279

日清食品(株) 食足世平 日清食品社史  
大阪 31cm 1992.05 405p 年表p378~405  
\*「30年史」,付・めん食の文化史

日新電機(株) 人と技術の未来をひらく 日新電機75年史 75年史編纂委員会編  
京都 27cm 1992.03 263p 年表p244~261

日通工(株) 日通工75年史 社史編纂委員会編  
川崎 29cm 1993.09 14,391p図版14枚 年表p360~387  
\*電話器製造,1987:社名変更,前身4社の小史あり

日鐵運輸(株) 時間の流れを超えて NTC 50th ANNIVERSARY 日鐵運輸株式会社「50年史」  
北九州 30cm 1993.01 211p 年表p162~179 日鐵運輸株式会社編

日鐵物流(株) 日鐵物流50年史  
東京 27cm 1993.06 16,415p 年表p379~412

日東運輸(株) 日東運輸50年史 この成果を明日へ 社史編集室編  
神戸 22cm 1993.03 646p 年表p626~635

(株)ニッピ ニッピ八十五年史 上巻 ニッピ八十五年史編纂委員会編  
東京 27cm 1992.04 456p  
ニッピ八十五年史 下巻  
東京 27cm 1992.04 417p  
\*旧社名:日本皮革株式会社(昭和49年変更)上巻は「50年史」の復刻

(株)ニコン 光とマイクロと共に ニコン75年史 75年史編纂委員会編纂  
東京 29cm 1993.06 37,484p  
光とマイクロと共に ニコン75年史・資料集 75年史編纂委員会編  
東京 29cm 1993.06 6,144p 年表p111~144  
\*1988年社名変更

西日本建設業保証(株) 西日本建設業保証株式会社最近十年史  
大阪 27cm 1992.12 433p 年表p402~433

- 西松建設(株) 香港物語-西松建設海外の三十年- 今井新一著  
東京 21cm 1992.05 10,311p 年表p291~311
- ニチメン(株) ニチメン100年 1892-1972 ニチメン(株)社史編集委員会・社史編集部編  
大阪 29cm 1994.02 594p
- 日本イーライリリー(株)(ELI LILLY JAPAN K.K.) イーライリリー社100年史  
神戸 1992.07 180p
- 日本火災海上保険(株) 気持ち あたらしく 日本火災100年のあゆみ (財)日本経営史研究所編  
東京 21cm 1992.10 360p図版4枚 年表p337~360
- (株)日本経済社 日本経済社50年史 日本経済社社史編纂委員会編  
東京 27cm 1992.11 265p 年表p225~265
- 日本鋼管(株) NKK創立80周年記念誌ガイア・オデッセイ 日本経済社社史編纂委員会編  
東京 27cm 1992.12 210p 年表p194~207
- 日本光電工業(株) 電子技術で病魔に挑戦-日本光電40年のあゆみ-  
東京 26cm 1993.01 282p 年表p268~278
- 日本債券信用銀行 日本債券信用銀行三十年史 日本債券信用銀行銀行史編纂室編  
東京 27cm 1993.06 18,721p図版2枚 年表p675~718
- 日本電設工業(株) 創業五十年,「50TH Anniversary」  
東京 27cm 1992.09 521p 年表p493~521  
\*鉄道の電気設備工事
- 日本パレットプール(株) 日本パレットプール二十年史 日本パレットプール株式会社編  
大阪 26cm 1992.05 244,26p 年表 巻末p1~26  
\*パレットのレンタル業
- 日本郵便通送(株) 日通50年の歩み 日本郵便通送(株)社史編集委員会編  
東京 27cm 1992.12 273p  
日通50年の歩み 資料編  
東京 27cm 1992.12 250p 年表p205~250
- 日本海曳船(株) 二十五年史 日本海曳船株式会社編  
新潟 26cm 1992.10 336p 年表p281~317

- 日本海ガス(株) 日本海ガス五十年史  
富山 27cm 1992.10 249p 年表p326~345
- 日本化工塗料(株) 波濤を越えて 社史  
寒川町(神奈川県) 28cm 1993.03 199p 年表p188~196
- 日本ガテックス(株) 日本ガテックス二十五年の歩み 日本ガテックス社史編集委員会編  
東京 27cm 1993.12 13,254p 年表p233~251  
\*日本通運・長瀬産業の合併会社,液体燃料の保管
- 日本航空(株) 日本航空40年の軌跡 40周年記念事業実行委員会編  
東京 26cm 1992.04 120p 年表p65~119
- 日本製紙(株) 原野を拓く 勇払工場操業五十年史  
苫小牧 22cm 1993.10 460p
- ノーリツ鋼機(株) ノーリツ鋼機のあゆみ ノーリツ鋼機株式会社編  
和歌山 29cm 1993.06 253p 年表p245~252  
\*写真現像機製造
- (株)乃村工藝社 ディスプレイ100年の旅 乃村工藝社100年史 野村工藝社社史編纂室編  
東京 30cm 1993.05 203p 年表p169~188
- 阪急国内空輸(株) 阪急国内空輸30年史 明日へ羽ばたく夢を 1960-1990 阪急国内空輸30年史編集委員会編  
大阪 27cm 1992.06 223p 図版5枚 年表p180~217
- 兵庫パン粉(株) 一歩,未来へ 兵庫パン粉30年のあゆみ  
神戸 27cm 1992.11 180p 年表p174~180
- (株)東日本銀行 東日本銀行の黎明-普銀転換の軌跡- 株式会社東日本銀行編  
東京 27cm 1993.03 185p 図版4枚 年表p179~185  
\*旧行名ときわ相互銀行,1989年普銀転換
- 日立機電工業(株) 日立機電工業三十五年史 日立機電工業株式会社社史編纂委員会編  
尼崎 27cm 1992.08 329p 年譜p284~315  
\*産業用クレーン,搬送装置
- 日立造船所(株) 有明 -20年の歩み-  
〔出版地不明〕 30cm 1993.04 134p

日立トラベルビューロー(株) 飛翔：わたしたちのステージは美しい地球です 日立トラベル  
創立25周年記念誌社史編纂委員会編

東京 30cm 1992.05 109p 年表p103~108

日野自動車工業(株) ディーゼルエンジン・トラック・バス

日野 26cm 1993 170p

\*技術史

豊かで住みよい地球をめざして

日野 26cm 1993.03 124p

樋屋製菓(株) 樋屋奇應丸のあゆみ 樋屋製菓株式会社社史編集室編

大阪 27cm 1992.04 11,382,23p 折り込み表1枚 年表：巻末p7~18

広島電鉄(株) 広島電鉄開業80・創立50年史 広島電鉄(株)社史編纂委員会編

広島 27cm 1992.11 165p,141p 年表p105~130

広島市信用組合 あゆみ 広島市信用組合四十年史 広島市信用組合四十年史編集委員会編

広島 27cm 1992.10 472p

(株)広島総合銀行 広島総合銀行七十年史 広島総合銀行行史編さん室編

広島 29cm 1993.09 431p 年表p416~429

\*広島無尽→広島相互銀行, 1989年普銀転換

広瀬バルブ工業(株) 未来へのかけ橋 ヒロセバルブ創業70周年記念史

彦根 27cm 1993.09 212p 年表p189~211

\*創業者の伝記あり

(株)びわこ銀行 びわこ銀行五十年史 びわこ銀行行史編纂室編

大津 27cm 1993 795p 年表p720~792

\*滋賀無尽→滋賀相互銀行, 1989年普通銀行へ転換

福島民報社 福島民報百年史 伝えて、新世紀。1892-1992 福島民報社百年史編集委員会編

福島 27cm 1992.09 611,264p

福知山信用金庫 創立70周年記念誌

福知山 31cm 1992.09 60p

(株)富士植木 樹芸百五十年 改訂版 前島康彦著

東京 27cm 1993.03 271p

富士電機(株) めぐりくるあしたへ 富士電機 創立70周年記念誌 創立70周年記念誌編集委員会編

東京 26cm 1993.10 125p

(株)藤本工務店 藤本工務店70年史

大阪 27cm 1992.03 309p 年表p276~307

(株)フジタ フジタ80年のあゆみ 建設業の革新をめざして 株式会社電通編

東京 29cm 1994.03 17,650p

\*藤田組, フジタ工業, 1990年社名変更

ブリヂストンスポーツ(株) ブリヂストンスポーツ20年の歩み

東京 29cm 1993.03 122p 年表p144~121

プロミス(株) プロミス30年史 草創 1962~1972 プロミス株式会社社史編纂プロジェクト編

東京 29cm 1994.02 8,399p

プロミス30年史 飛躍 1973~1981

東京 29cm 1994.02 8,467p

プロミス30年史 革新 1982~1992

東京 29cm 1994.02 12,753p

プロミス30年史 資料、年表

東京 29cm 1994.02 3,159p

プロミス30年史 付編

東京 29cm 1994.02 4,170p

\*消費者金融, 「草創」に創業者伝記あり

北海道建設業信用保証(株) 北海道建設業信用保証40年史

札幌 27cm 1992.09 588p

北海道ガス(株) 三つの街。話の花束。

札幌 26cm 1993 255p 年表p222~254

(株)北海道新聞社 北海道新聞五十年史

札幌 27cm 1993.7 12,780p(図版10枚) 年表p758~695

(株)ホーネンコーポレーション 育もう未来を ホーネン70年のあゆみ ホーネンコーポレーション

社史編集委員会編

東京 27cm 1993.04 312p 年表p285~309

\*旧社名：豊年製油, 1989年名称変更



保安工業(株) 五十年史 五十年史編纂委員会編  
東京 27cm 1993.04 32,245p 年表p163~177

(株)報知新聞社 世紀を越えて 報知新聞社百二十年史 報知新聞社社史刊行委員会編  
東京 27cm 1993.06 479p 年表p399~448

(株)豊和銀行 豊和銀行史 豊和銀行史編纂委員会編  
大分 27cm 1992.12 8,376p 年表p345~376  
\*旧行名:大豊殖産無尽,豊和相互銀行1989年普銀転換

北陸コカ. コーラボトリング(長野コカ. コーラボトリング)(株) 30年のあゆみ  
高岡 29cm 1993.05 333p 年表p312~333

北陸冷蔵(株) 北陸冷蔵70のあゆみ 北陸冷蔵株式会社編  
金沢 31cm 1993.10 189p

(株)北陸銀行 北陸銀行50年史 北陸銀行50年史編纂室編  
富山 27cm 1994.03 16,533p 年表486~531p

マックス(株) ホッチキス物語  
東京 15cm 1992.11 37p

前田建設工業(株) 昨日・今日・明日 前田建設工業の70年 前田建設工業社史編纂室編  
東京 20cm 1993.3 326p 年表p303~324

松下通信工業(株) 革新する電波・30年  
横浜 30cm 1993.05 89p 年表p74~88

松下電工(株) 松下電工A&I物語 掘り抜き,掘り起こせ 創業75周年記念  
門真 30cm 1993.05 296p

(株)丸運 創業百年史(株式会社丸運)  
東京 27cm 1993.05 20,679p 年表p622~675  
\*運送業

マルシヨクグループ マルシヨク四十五年の歩み マルシヨクグループ社史編纂委員会編  
北九州 29cm 1992.12 316p図版9枚 年表p309~312

美樹工業(株) 21世紀へ飛翔 美樹工業40年史 美樹工業株式会社編  
姫路 29cm 1993.09 97p 年表p87~97

御木本(ミキモト・グループ) 輝きの世紀-御木本真珠発明100周年記念誌  
東京 25×25cm 1994.01 118p

三井海上火災保険(株) 朱龍・三井海上ものがたり(75年小史)  
東京 19cm 1994.03 350p図版9枚 年表p320~350

三井建設(株) 三井建設社史 三井建設(株)社史編纂室編  
東京 27cm 1993.09 16,485p図版8枚 年表p463~479  
\*前身会社西本組小史あり

三井造船(株) 三井造船株式会社75年史 三井造船株式会社編  
東京 29cm 1993 11,876p 年表p845~875

三井東圧化学(株) 三井東圧化学社史 社史編纂委員会編  
東京 27cm 1994.03 24,1029p 年表p940~994  
\*初の社史,索引あり

三菱地所(株) 丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 上巻 三菱地所株式会社社史編纂室編  
東京 27cm 1993.03 16,565p図版4枚  
丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 下巻  
東京 27cm 1993.03 28,720p図版12枚,折り込み図3枚  
丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 資料・年表・索引  
東京 27cm 1993.03 4,590p図版6枚 年表p337~495

三菱自動車エンジニアリング(株) 三菱自動車工業株式会社社史 三菱自動車工業株式会社総務部  
社史編纂室編  
東京 27cm 1993.05 1131p 年表p1016~1127

(株)三菱電機サービスセンター SC30年のあゆみ (株)三菱電機サービスセンター社史編集室編  
東京 27cm 1992.11 256p図版8枚 年表p237~256

三菱重工業(株) 三菱重工三原製作所五十年史 三原製作所五十年史編纂委員会編  
広島 27cm 1993.12 701p図版10枚 年表p640~665

三菱自動車工業(株) 水島自動車製作所五十年史 水島自動車製作所50年史編さん委員会編  
倉敷 27cm 1993.09 358p 年表p327~356

(株)宮崎太陽銀行 宮崎太陽銀行五十年史 宮崎太陽銀行総合企画部編  
宮崎 27cm 1992.03 607p図版8枚 年表p574~604

(株)未来社 ある軌跡 未来社40年の記録  
 東京 22cm 1992.08 281,80p 年表p257~278

明治生命保険(株) 目でみる明治生命の110年 凸版印刷(株)社史センター・(財)日本経営史研究所編  
 東京 29cm 1993.03 273p 年表p256~270  
 創業第二世紀の明治生命 110年史  
 東京 22cm 1993.03 26,467p図版4枚 年表p426~464  
 創業第二世紀の明治生命 110年史 資料編  
 東京 22cm 1993.03 403p

モービル石油株式会社 100年のありがとう モービル石油の歴史 モービル石油株式会社編  
 東京 22cm 1993.05 465p

株式会社モデック AHIとの17年/モデック編  
 東京 26cm 1992.06 171p

(株)山口銀行 五十年の緑樹 山口銀行創立50周年誌  
 下関 30cm 1993.03 111p

ヤマトシステム開発(株) ヤマトシステム開発20年史  
 東京 27cm 1993.12 8,345p 年表p331~343

(株)山梨中央銀行 地域とともに 山梨中央銀行創立50周年記念誌 山梨中央銀行行史編纂室編  
 甲府 29cm 1993.04 143p

(株)山室 山室八十年の歩み 山室編  
 東京 22cm 1993.02 262p 年表p245~262  
 \*古紙問屋

(株)ユアサコーポレーション クリーン・エネルギーを世界へ (YUASA75年史)  
 27cm 1993.04 315p 年表p301~314

ユニオンペイント株式会社 ユニオンペイント20年のあゆみ 創立20周年記念社史編纂委員会編  
 八潮 28cm 1992.04 79p

横浜植木(株) 横浜植木株式会社100年史  
 横浜 27cm 1993.04 330p図版10枚 年表p305~327

横浜信用金庫 横浜信用金庫70年史 横浜信用金庫史編さん委員会編  
 横浜 27cm 1994.03 262p 年表p234~255

横浜商銀信用組合 横浜商銀30年史  
 横浜 27cm 1992.05 362p (図版共) 年表p353~361

吉本興業(株) 吉本八十年の歩み (株)ジオード編集  
 大阪 27cm 1992.08 283p図版2枚 年表p262~275

ライオン(株) ライオン100年史 ライオン株式会社社史編纂委員会編  
 東京 29cm 1992.10 16,452p 年表p416~449

(株)ライオン事務器 おかげさまで二〇〇年  
 大阪 29cm 1992.11 153p あゆみ:p149

ラサ工業(株) ラサ工業80年史 ラサ工業株式会社社史編纂室編  
 東京 27cm 1993.05 354p図版6枚 年表p331~352

琉球海運(株) 琉球海運株式会社四十年史  
 那覇 27cm 1992.05 511p 年表p485~511

琉球製糖(株) 琉球製糖創立四十周年記念誌1991 若夏社編集  
 南風原町(沖縄県) 27cm 1992.07 311p (図版共) 年表p235~308